

Newsletter

—学会会報—

The Japanese Society for Curriculum Studies

発行：日本カリキュラム学会事務局

〈目 次〉

〈理事会報告〉

- I 各種委員会報告
- II 審議事項

〈総会報告〉

- I 第 20 回大会年度(2009 年度)決算報告
- II 第 21 回大会年度(2010 年度)活動方針
- III 投稿要領の改正について
- IV 機関誌『カリキュラム研究』掲載論文・報告書等の電子化について
- V 第 22 回(2011 年)大会開催校について

〈第 21 回大会報告〉

〈事務局からのお知らせ〉

〈公示 本学会機関誌の論文と報告書の電子化について〉

— 〈 理事会報告 〉 —

[2010 年 7 月 2 日(金) 17:00~18:00(於) 佐賀大学本庄キャンパス教養教育棟 1 号館大会議室]

定例の理事会が 7 月 2 日(金)午後 5 時から 6 時まで、佐賀大学本庄キャンパス教養教育棟 1 号館大会議室で開催されました。理事 21 名、大会開催校関係者 2 名、および事務局 3 名が参加しました。水原克敏代表理事挨拶、大会開催校の上野景三先生(文化教育学部長)、井上正允大会実行委員長の挨拶に続き、下記の議題を審議・決定しました。

I. 各種委員会報告

- (1) 紀要編集委員会(委員長・副委員長欠席のため、代理：中野和光委員、清水事務局長)
電子公開についての審議が執り行われたことが報告された。詳細は、後掲(3)の審議事項。
- (2) 国際交流員会(浅沼茂委員長)
予算獲得のため科研費への申請を行ったが、今回は不採用であったことが報告された。
- (3) 広報委員会(村川雅弘委員長)

ホームページの運営が、事務局に移管されたことが報告された。

(4) 研究委員会（豊田ひさき委員長）

3月27日開催の研究集会について、沖縄から北海道まで20数名の参加者が得られ、竹川慎哉会員と香川大学附属小学校団体会員の2件の発表により、盛会に終わったことが報告された。本研究集会は、次年度以降も継続の方針である。

(5) 研究奨励賞審査委員会（委員長・副委員長欠席のため、代理：中野和光委員）

選考の結果、本年度は該当者無しとなった旨が報告された。

II. 審議事項

(1) 次期大会開催校について

次年度の第22回大会は、東日本の当番であり、北海道大学で開催するとの原案が承認された。大会会期は2011年7月16日(土)から17日(日)まで(7月15日(金)理事会開催)。詳細については、11月の理事会で決定する予定である。

(2) 総会議事について

① 2009年度活動報告・決算（案）および2010年度活動方針・予算（案）について

標記について、すべて原案通りに承認された。

- ・ 会員現況概要：会員総数914名（一般754名、学生150名、団体10件。ただし、連絡先不明・会費未納による会員資格停止者169名を含む）、新入会員46名。会費納入率71.2%（昨年度70.0%）。
- ・ 学会誌『カリキュラム研究』第19号発行。会報「ニューズレター」第50号、51号、52号発行。会報は順次HPにも掲載。

② 投稿要領の改正について

標記について、紀要編集委員会より提案がなされ、総会で提案する原案が承認された。

③ 機関誌『カリキュラム研究』掲載論文・報告書等の電子化について

2009年7月12日開催の理事会で標記の件が提案されて以来、審議を重ね、本理事会にて、総会で提案する最終案を、一部修正を経て承認した。

(3) その他

次期代表理事選挙の投票手続きについて意見が交わされ、次期理事会（11月開催）で再度審議を行うこととなった。

— 〈 総会報告 〉 —

2010年7月4日(日)、12時15分から12時50分まで、佐賀大学教養教育大講義室において、井上正充会員(佐賀大学)、大野栄三会員(北海道大学)を議長団として、総会が開催された。これにおいて、7月2日の理事会で承認された議案が、すべて承認された。

I. 第20回大会年度(2009年度)決算報告(2009年4月1日～2010年3月31日)

収入の部

項目	予算額(円)	決算額(円)
学会年会費	3,700,000	4,175,000
入会金	80,000	92,000
学会誌代・雑収入・利子等	50,000	120,009
寄付	0	0
前年度繰越金	2,516,221	2,516,221
合計	6,346,221	6,903,230

支出の部

項目	予算額(円)	決算額(円)
第20回大会経費	800,000	800,000
20周年記念事業経費	1,100,000	1,436,850
第19号紀要刊行費	600,000	448,800
学会研究奨励賞費	30,000	30,000
印刷費(会報・封筒等)	200,000	169,185
通信費	500,000	285,350
会合費(含む交通費)	650,000	821,013
事務局人件費	800,000	360,840
消耗品費(含む雑費)	100,000	30,940
財)日本学術協力財団賛助会費	50,000	50,000
理事選挙・代表理事選挙実施費	0	0
各種委員会経費		
紀要編集委員会	300,000	298,205
広報委員会	50,000	0
国際交流委員会	100,000	50,000
研究委員会	50,000	50,000
学会奨励賞審査委員会	150,000	12,300
(小計)	650,000	410,505
予備費	300,000	177,115
次年度繰越金	566,221	1,882,632
合計	6,346,221	6,903,230

II. 第21回大会年度(2010年度)活動方針

(1) 一般方針

1. 年次大会の実施
2. 第22回大会の準備
3. 学会誌『カリキュラム研究』第20号発行
4. 学会研究奨励賞
5. 会報、その他の広報活動
6. 会員勧誘、会費納入促進活動

(2) 第21回大会年度予算(2010年4月1日～2011年3月31日)

収入の部

項目	予算額(円)	備考
学会年会費	3,700,000	一般会員 530 学生会員 150
入会金	80,000	40名
学会誌代・雑収入・利子等	50,000	
寄付	0	
前年度繰越金	1,882,632	
合計	5,712,632	

支出の部

項目	予算額(円)	
第21回大会経費	800,000	
第20号紀要刊行費	600,000	
学会研究奨励賞費	0	今年度該当者なし
印刷費(会報・封筒・名簿等)	300,000	新会員名簿作成
通信費	500,000	
会合費(含む交通費)	650,000	
事務局人件費	800,000	
消耗品費(含む雑費)	100,000	
財)日本学術協力財団賛助会費	50,000	
理事選挙・代表理事選挙実施費	250,000	選挙管理委員会会合費
各種委員会経費		
紀要編集委員会	300,000	
広報委員会	50,000	
国際交流委員会	200,000	
研究委員会	50,000	
学会奨励賞審査委員会	150,000	
(小計)	750,000	
予備費	300,000	
次年度繰越金	612,632	
合計	5,712,632	

III. 投稿要領の改正について

機関誌『カリキュラム研究』掲載論文・報告書等の電子化と、フロッピー・ディスクを使用するコンピュータの激減に伴い、投稿要領の一部を改正する旨の報告がなされ、すべて承認された。改訂版投稿要領は、本年度発行予定の機関誌『カリキュラム研究』第20号に掲載し、次年度機関誌（『カリキュラム研究』第21号）より適用される。

IV. 機関誌『カリキュラム研究』掲載論文・報告書等の電子化について

標記について、提案の趣旨説明、審議経過、提案内容および「本学会機関誌の論文と報告書の電子化について（公告）」が報告され、すべて承認された。電子化は、2010年7月から契約を開始し、2011年4月から公開となる。これらについては、「本学会機関誌の論文と報告書の電子化について（公示）」（最終頁）として、機関誌『カリキュラム研究』第20号にも掲載される。

V. 第22回大会(2010年)開催校について

次期大会は、北海道大学において開催されることが承認された。

大会日程の予定は、2011年7月16日(土)・17日(日)である。理事会開催は7月15日(土)である。

—— 〈 第21回大会報告 〉 ——

各地で大雨の被害が伝えられるなか、日本カリキュラム学会第21回大会を7月2日から4日にかけて佐賀大学で開催いたしました。

220名の大会参加者、61件の自由研究発表と多くの方々の参加と発表をいただきました。

また、懇親会にも90名の方々の参加をいただき、盛会のうちに大会を終えることができました。

課題研究は、次に掲げる4つのテーマで実施しました。

I カリキュラム・マネジメントに関する研修プログラムの開発

II カリキュラムにおける公共性のポリティクス（1）

III 改訂指導要録の特徴と課題

IV 21世紀における基礎的能力とカリキュラム

What are basic abilities in 21st Century's Schools?

課題研究IVでは、日本、香港、イランのそれぞれ国、民族を背景に持つカリキュラム研究者からの提案を基に議論を進めることができました。

公開シンポジウムでは「地域・学校・カリキュラム」をテーマに200名の方々の参加をいただき、地域や学校からカリキュラムを立ち上げていくことについて討論をいたしました。また、自由研究発表の新たな試みとして国際分科会を企画し、8件の発表が実現しました。

お手伝いいただきました大学院生や学生、附属中学校の先生方にも感謝申し上げます。

行き届かぬ点が数多くあったと思いますが、大会に参加された方々に、運営に関わっていただいた方々に、そして会員すべての方々に心より御礼と感謝を申し上げます。ありがとうございました。

（佐賀大学 井上 正允）

— 〈 事務局からのお知らせ 〉 —

(1) 平成 22 年度（2010 年度）分会費納入のお願い

大会も無事終了し、年度の半ばとなりました。今年度分の年会費が未納の方は、納入をお願いします。本学会の誇りの一つである高い納入率を維持するためにも、納入促進に会員のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。年会費を滞納しますと、学会誌が送付されなくなりすると同時に、大会での発表資格・学会誌への投稿資格を失いますので、ご注意願います。また、本年度分までの会費が完納されていない会員の方につきましては、来年度春に開催予定の理事選挙の選挙権および被選挙権が失われます（「日本カリキュラム学会役員選出規程」第 2 条第 3 項より）ので、併せてご注意いただきますようお願いいたします。

皆さまの会費納入状況は、宛名ラベルのお名前の下に記載しております。未納年度が記載されている方は、お早目のご納入をお願い申し上げます。なお、事務処理上、ラベル記載情報と実際の納入状況に、若干の行き違いが生じる可能性があります。その際は何とぞご容赦ください。

なお、事務局では、年会費について、通常通りでない処理の場合、以下の方針で処理を行っております。①年会費の年度指定がない場合や、年度指定があってもそれ以前に未納年度がある場合→未納年度の内、最も早い年度の年会費として処理。②すでに当該年度まで完納をいただき、さらにお振り込みがあった場合→次年度以降の会費として繰り越し。

会費納入状況につき、ご不明の点がございましたら、些細な点でも結構ですので、ご遠慮無く事務局までお問い合わせください。よろしくお願い致します。

（年会費：一般 6,000 円、学生 3,000 円、団体 10,000 円）

(2) 会員名簿作成に関する御礼とお願い

「会員情報確認通知」のご記入・ご返送にご協力を賜り、ありがとうございました。現在、事務局到着分の通知の確認作業を終え、必要に応じお問い合わせを行っております。なお、通知のご返送がない会員様におかれましては、旧名簿の情報を基に記載をさせていただきますので、ご了承願います。通知返送後、異動等により、会員情報に変更が生じた際は、お手数をおかけいたしますが、速やかに事務局までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

会員名簿は、本年度中に作成を終え、会員の皆様にお届けする予定です。

(3) 寄贈図書一覧 (2010年3月3日～2010年9月17日 事務局到着分)

本学会事務局に寄贈いただいた図書について、下記の通りご報告いたします。

	書名	著者	出版社	奥付日付
1	批判的リテラシーの教育—オーストラリア・アメリカにおける現実と課題	竹川慎哉	明石書店	2010年 1月31日
2	社会系教科教育研究のアプローチ ～授業実践のフロムとフォー～	社会系教科教育学会編	学事出版	2010年 2月20日
3	授業デザインの最前線Ⅱ 理論と実践を創造する知のプロセス	高垣マユミ	北大路書房	2010年 4月1日
4	開放制目的教員養成論の探求	白井嘉一	学文社	2010年 4月10日
5	グローバル時代の国際理解教育 —実践と理論をつなぐ—	日本国際理解教育学会 藤原孝章／石森広美／ 今田晃一／多田孝志／ 中山京子／森茂岳雄	明石書店	2010年 7月4日
6	現代の認知心理学 5 発達と学習	日本認知心理学会監修 市川伸一編	北大路書房	2010年 7月30日
7	生活指導事典 —生活指導・対人援助に関わる人のために—	編著・日本生活指導学会 編集代表・竹内常一	エイデル研究所	2010年 8月25日
8	<新しい能力>は教育を変えるか 学力・リテラシー・コンピテンシー	松下佳代 編著	ミネルヴァ書房	2010年 9月10日

〒980-8576

仙台市青葉区川内 27-1

東北大学大学院教育学研究科内

日本カリキュラム学会 事務局

TEL&FAX : 022-795-3755

振替口座番号 : 00880-0-69090

E-mail: jscs@nifty.com

URL : <http://homepage3.nifty.com/jscs/>

公示

本学会機関誌の論文と報告書の電子化について（公示）

日本カリキュラム学会代表理事
水原克敏

日頃より本学会の運営と研究の推進にご協力いただき、ありがとうございます。2010年の総会において、学会機関誌の論文と報告書の電子化について次のように決定しましたので、ここに広告します。

電子公開した場合、これまで本学会の会員が有していた既得権の一部が失われる側面がありますが、会員だけでなく広く多くの方に本学会の研究成果を普及することができ、本学会誌に掲載された論文への関心と引用が高まる側面もあります。また、本学会の機関誌への投稿権は会員に限られています。さらに最新号は1年後からの公開となりますので、電子公開されても会員の投稿権および利点の一部は保証されます。これらの諸条件を考慮し、2011年4月から機関誌の論文および報告書を電子化し公開することを決定いたしました。

論文等の電子化の範囲は、論文、書評、図書紹介、大会報告、海外カリキュラム研究情報です。電子化は創刊号から公開しますが、最新号は、発行一年後の公開となります。

公開機関は、CiNii としました。有料の場合に見込まれる利用収入が少額であること、また CiNii 利用が有料で、機関リポジトリの利用が無料であることからくる矛盾に対応するために、料金設定は、完全無料といたしました。

論文等の著作編集権、複製権、公衆送信権は学会に属し、論文の著作権は著作者に属します。

投稿論文の電子化・公開の同意は、過去に掲載された論文等については送付される同意書(葉書)に諾否のどちらかに印をつけご返送してください。否の連絡があった論文等は電子化しません。過去の論文等の著者から連絡が期日までになかった論文等は、公示によって承認したものと公開いたしますが、後日否の連絡のあった論文等は削除いたします。2011年後の掲載論文等については、投稿時に電子化・公開に同意をしたものと見なします。そのことは2010年に改正されました投稿要領に明記されています。

封書により会員の皆様および過去に掲載された論文の著者の方には通知をいたしますが、ニューズレターと機関誌『カリキュラム研究』第20号に「本学会機関誌の論文と報告書の電子化について（公示）」が掲載されます。また本学会のホームページ (<http://homepage3.nifty.com/jses/>) には2012年12月末まで掲載されます。

電子化は、2010年7月から契約を開始し、2011年4月から公開になります。

電子化に伴い、ますます研究者倫理の遵守の必要性が高まります。日本学術会議の「科学者の行動規範」を厳守してくださるようお願いいたします。

2010年7月4日